



## 2017 年度事業報告書

2017 年 11 月

特定非営利活動法人 さくら並木ネットワーク

2017 年度の当団体は、宮城・岩手・福島の大震災の被災地域に約 500 本の桜を植樹することができました。

当団体が発足(2011 年)した次の年(2012 年)の春のような大津波で犠牲となられた住民の皆様を弔う慰霊の植樹要請(植樹場所は主に慰霊碑や墓地や神社など地域コミュニティの中心場所)も継続してありましたが、近年被災地域の住環境の変化が急速に進みつつあり(仮設・みなし仮設から高台(集団)移転地へ)、そんな移転地のあらたなまちづくりやコミュニティづくりとしての植樹要請が増加傾向にあります。2017 年度春植樹は約 7 割が高台(集団)移転地の植樹要請となり、今後もさらに増えることが予想される一年となりました。

そんな高台(集団)移転地住民の皆様の植樹要請の意図は地域により様々でありましたが、総じて多くなったと感じたのは

- 日本人が感情移入しやすい桜を地域コミュニティの中心部にみんなで植樹し、その桜を将来地域再生の象徴としたい(コミュニティ再生)。

- またいつかその桜で一緒に花見をしたい(コミュニティ形成)

という大津波(もしくは福島原発事故)で傷ついた自地域復活の「おもい」や「誓い」のように思います。

そこで全国の多くの支援者やボランティアの皆様の応援を背中に受けつつ、東日本大震災の被災地域の皆様のために 2011 年度から桜植樹事業を中心とした支援活動を続けてきた当団体は、近年当団体に寄せられる植樹要請で顕著になってきた大津波(もしくは福島原発事故)で壊れてしまった地域コミュニティを再構築したいという被災地域の皆様の「おもい」や「誓い」をもっとお手伝いし、その気持ちに寄り添っていきたく考えました。

そのためには被災三県沿岸部により近い場所に、これまで以上の強固な現地活動拠点設立の必要性を感じました。そこで 2017 年 7 月に今まで当団体が植樹事業を展開してきた福島県南相馬市～岩手県の間地点に当たる宮城県仙台市若林区にさくら並木宮城拠点(被災地域活動拠点)を開設。

また被災地域の皆様とともに意義のある植樹会をより多く開催するため。そして被災地域や支援者、ボランティアの皆様とともに心をつなげて植樹した大切な桜のメンテナンス作業をより円滑に実行していくためには、業務のスピード化と被災地域への桜植樹材料

やメンテナンス資材運搬増が不可欠と判断。2017年8月末に今まで使用していた1.5トン平トラックを売却し、2トンロング平トラックにバージョンアップを図りました。その効果は確実に現れており、例えば2017年11月に全国のボランティアの皆様とともに行った城県石巻市牡鹿半島小網倉浜高台移転地（2018年植樹予定）の土壤改良作業では、それ以前の同規模の植樹会準備より約三分の一ほどに時間短縮を図ることができました。（牡鹿半島などの一部地域の高台移転地では、土壤が岩板状になっているところがあり、高齢化が加速している地域の皆様の方では、植樹会当日にすべての作業を終えることは困難です。そのために当団体では準備の一環として、前もった土壤改良作業をし、植樹会当日に備えております）

また今まで東北地方では、少ない現地スタッフとボランティアで桜植樹事業を中心とした被災地支援活動を行ってきました。しかし今後は現地有給スタッフを採用し（現時点では募集中）、これまで以上に被災地域の皆様の心の声や願いが聞き取れるよう、さくら並木宮城拠点のさらなる被災地域の情報収集能力とヒアリング力の向上に努めてまいりたいと思います。



## 1. 桜植樹事業

当団体の主要事業です。

主に近年急増している①高台（集団）移転地植樹事業。②津波到達地域（もしくは福島原発事故エリア）及び現地再建者植樹事業。被災地域の幼稚園（保育園）や学校の植樹となる③子ども体験植樹事業。被災地域の老人福祉施設などの植樹となる④高齢者生きがい植樹事業。被災地域市民団体と当団体が共催（もしくは後援）して植樹する⑤地域イベント型植樹事業に分けられます。

当団体の植樹事業の特徴は、被災地域の皆様の東日本大震災によって傷ついてしまった心情、各地で異なる地域事情や環境をよく考慮しながら寄り添いの心を持ち、被災地域（町内会・自治会・施設・地域団体など）と当団体の共催（もしくは後援）植樹会という形になるよう心がけております。そして当団体（+支援者やボランティアの皆様）は、被災地域の皆様が「桜を自地域に自らの手によって植える」お手伝いというスタンスに徹することこそ、

地域の皆様が「この桜は私達みんなで植えた大切な桜」だという意識(愛着)につながると考えております。そしてそんな愛着ある桜が将来地域コミュニティの象徴や中心となって機能してくれるよう、意識しながら桜植樹事業を実施しております。

#### ① 高台(集団)移転地植樹事業



2017年度春植樹(2~4月)は、2016年度よりさらに高台(集団)移転地からの植樹要請が増え、当団体の植樹の約7割がこの植樹事業となりました。

移転地内のコミュニティができたばかりのところやコミュニティ形成がままならないところも多いので、移転地住民の皆様が植樹会に気軽に明るく参加しやすい雰囲気づくりを心がけ、「みんなで植えた私達の桜」と愛着が持てるようにしています。また植樹会で一緒に作業した当団体の全国の支援者やボランティアの皆様との友情が長く続くように、餅つき会やイベントも一緒に行った植樹会もありました。

2017年度の春植樹(2~4月)は、住民の皆様が集まりやすい土日に被災三県の高台(集団)移転地にて計25回ほど実施しております。

実施場所 宮城県石巻市鮎川浜清崎高台移転地、石巻市荻浜地区高台移転地など

#### ② 津波到達地域(もしくは福島原発事故エリア)及び現地再建者植樹事業

津波が到達した地域(もしくは福島原発事故エリア)で開催される植樹事業です。また震災以前に住んでいた地域に帰還した住民の皆様のための植樹となり、地域コミュニティで大事にされている神社や墓地、公園、空き地などが植樹場所となる植樹事業になります。

東日本大震災以降過疎化・高齢化が進行している地域がほとんどとなりますので、この植樹事業も高台(集団)移転地植樹会と同じように、住民の皆様が明るく参加しやすい雰囲気づくりを心がけています。

しかし2017年度の宮城県山元町社会福祉法人静和会慰霊碑は植樹をあらかじめ済ませておき、献花式にスタッフが参列し、ご遺族の皆様とともに静和会施設内で津波で亡くなられた方達のご冥福をお祈りしたこともありました。

この植樹事業は2017年度春(2~4月)は5回ほど実施しております。  
実施場所 宮城県亘理町鳥屋崎神社、宮城県山元町静和会慰霊碑など



### ③ 子ども体験植樹事業



東日本大震災の津波により多大な津波犠牲者が出てしまった被災地域では、子どもは地域の大切な宝であり、未来の象徴となっています。

当団体では、そんな被災地域の宝である子ども達に桜植樹体験をさせ、「思い出づくり」や成長する桜とともに「地域を愛する心」を育ててほしいと願い、当団体発足当初からこの子ども体験植樹事業を積極的に推進しております。

2017年春植樹では宮城県石巻市メロン保育園、石巻市アリス保育園、東松島市野蒜幼稚園、石巻市さくら町渡波中学校と計4回実施いたしました。

### ④ 高齢者生きがい植樹事業

東日本大震災以前から過疎化・高齢化傾向にあった被災三県(宮城・岩手・福島)沿岸部は、大震災の大津波によりさらに過疎化・高齢化が進行してしまいました。

当団体では、そんな沿岸部に存在する老人福祉施設などの入居者や利用者の皆様に、「春に花咲く未来」の楽しみをもっといただきたいと考え、この高齢者生きがい植樹事業も積極的に推進しております。

植樹作業は老人福祉施設の職員の皆様とともに、ご高齢の入居者(利用者)の皆様の心身の健康と長寿を願いながら行います。

2017年春(2~4月)は宮城県石巻市清心苑(老人ホーム)と東松島市すみちゃんの家(宅老所)の計2回実施いたしました。



### ⑤ 地域イベント型植樹事業



東日本大震災の被災地域では、住民自らが「地域の活性化」や「観光地化」を目指して市民団体や地域団体を起し、頑張っている方がおります。

当団体ではそういう住民の皆様の「自分の地域は自らの力で何とかしたい」という強い意思を尊重し、そんな市民団体や地域団体の皆様とは当団体は共催(もしくは後援)という形で植

樹会を開催するようにしております。

2017年2月から福島原発事故の影響で住民が10分の1ほどに減少してしまった福島県南相馬市小高地区を盛り立てていきたいと日々奮闘している市民団体「おだか千本桜プロジェクト」の後援事業を開始。今後複数年続く予定のおだか千本桜プロジェクト植樹会には、当団体はそんな形で関わっていきたいと考えております。

この植樹事業に分類される植樹会は2017年春(2~4月)に計5回ほど実施いたしました。

**実施場所** 福島県南相馬市「おだか千本桜プロジェクト」植樹会、岩手県山田町「山田町復興さくらの丘」植樹会など

## 2、桜のメンテナンス事業

平均気温が低い東北地方の気候の中で桜が生きていくためには、様々なメンテナンス(草刈り、追肥、支柱替え等)をしなければ、成長がかなり鈍化してしまいます。また三陸沿岸部の植樹した桜は鹿などの獣害に遭うことが多く、継続的な経過観察が必要になります。



そして当団体が発足(2011年)当初から被災三県(宮城・岩手・福島)で植樹してきた桜は2017年春植樹が終了した時点で4600本を超え、年月を経るごとにこのメンテナンスの重要性を強く感じるようになりました。

地域住民の皆様と共同、また極端な過疎化・高齢化が進み桜のメンテナンスの担い手が減少している地域では、当団体が支援者やボランティアの皆様とともにメンテナンス会を実施することもありました。

2017年の夏は雨が多かったため、例年に比べ桜のメンテナンスが思うように進みませんでした。今まで植樹した地域で約40回ほど実施いたしました。

## 3、花見会事業



2011年に発足し2012年春から被災三県(宮城・岩手・福島)沿岸部で植樹事業を展開している当団体ですが、植樹した桜の一部はかなり大きくなり、被災地域のあらたな喜びや癒しとなって機能している桜が出始めてきました。

また花をつけ始めた桜を囲み自発的に花見会をする地域や高台(集団)移転地も年々増加しており、現地スタッフがそんな花見会に呼ば

れたりするようにもなりました。それが当団体の何よりの活動の励みになっております。

そして当団体は、そんな被災地域の皆様と桜と一緒に植樹した支援者やボランティアの皆様との友情を仲介し、「植樹した桜を中心とした心温かい交流」が永続的なものになるように、尽力していきたいと思っております。2017年春はオーガビッツ・プロジェクト様の基金により植樹会をした被災地域と、オーガビッツ・プロジェクト、そして当団体との合同花見会が実施されました。

花見のシーズンは当団体の植樹シーズンとぶつかるため、この花見会事業推進は現行体制では難しかった面がありますが、今後は植樹事業終了後の春の花見会事業にも力点を置いて、実施体制を整えていければと考えております。

#### 4、被災地域イベント事業



当団体は東日本大震災で被災された地域の皆様を少しでも励まし元気になっていただくために、不定期ですが地域イベントを開催しております。

2017年10月1日には、オーガビッツ・プロジェクト様とベガルタ仙台様のご厚意により、2016年春に植樹した福島県新地町のサッカー少年団の子ども達を招き、昨年続き二回目の「オーガビッツさくら並木プロジ

ェクト」マッチ観戦を実施。子ども達に笑顔のプレゼントをすることができました。

また2017年春に植樹した宮城県東松島市のすみちゃんの家（宅老所）の関連施設はまなすの里が企画した地域のご高齢の住民の皆様を招いたお茶会では、仙台市在住のミュージックベルグループ cara\*cara の皆様の力をお借りし演奏会をしました。

この被災地域イベント事業もさくら並木宮城拠点の強化により、不定期から定期的に開催できるよう尽力していきたいと思っております。

#### 5、チューリップの球根植栽会



毎年岐阜種苗様からチューリップの球根（平均5000球）のご支援いただき、11月下旬～12月上旬にかけて、5か所ほどで植樹で関わりのあった被災地域の皆様とともにチューリップの球根植栽会を開催しています。

2017年度は2018年春に植樹予定である宮城県石巻市につこりサンパーク高台移転地にて住民の皆様とともに餅つき会を絡めた

イベントとして実施する予定です(実施日程 12 月 3 日)。

## 6、東日本大震災の風化防止活動

現在全国的に東日本大震災の風化がかなり進んでいると感じておりますが、東北の復興への道は依然として長く険しいものと考えております。

当団体は本部が都心部にある利点を生かし、全国各地で講演やラジオ出演などによって東日本大震災の風化防止に努めております。

また当団体の支援者の皆様とともに、東日本大震災の風化防止活動としてイベントやコンサートなどの企画や開催をしております。

2017 年度は東京都世田谷区で当団体の桜大使である普天間かおりさんが出演した東日本大震災復興支援チャリティーコンサート「さくら並木の道しるべ」など計 10 回ほど実施されております。

